



平成 21 年 4 月 8 日

各 位

会 社 名 株式会社アパマンショップホールディングス
(コード番号8889 大証ヘラクレス)
代 表 者 代表取締役社長 大村 浩次
本 社 所 在 東京都中央区京橋一丁目1番5号
問 合 せ 先 常務取締役 石川 雅浩
T E L 0 3 - 3 2 3 1 - 8 0 2 0

当社子会社(株式会社AS-SZKi)の特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社の連結子会社であります株式会社AS-SZKi(JASDAQ コード 1995)が、平成 21 年3月期決算における特別損失の発生、及び平成 20 年 11 月 26 日付「特別損失の発生及び業績予想の修正並びに期末配当予想の修正に関するお知らせ」にて発表いたしました業績予想を別添資料のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

なお、当社の第2四半期連結累計期間及び通期連結業績への影響については現在集計中であり、今後業績予想の修正が必要と判断される場合には速やかにお知らせいたします。

以 上

<別添資料>

株式会社AS-SZKiの開示資料

「特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ」

各 位

会 社 名 株式会社AS-SZKi
 代 表 者 名 代表取締役社長 千葉 慎二
 (JASDAQ コード 1995)
 問 い 合 せ 先 専務取締役 木下 義治
 電 話 番 号 055-971-3040

特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社の平成 21 年3月期末決算において下記のとおり特別損失が発生いたしますので、その概要をお知らせいたしますとともに、最近の業績動向を踏まえ、平成 20 年 11 月 26 日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生及びその内容

不動産市況の低迷に伴う不動産鑑定評価額の下落の影響を受け、当社の連結子会社が所有するたな卸資産の売却可能価格を見直し、当社の連結子会社に対する貸付金について、回収可能性を検討した結果、貸倒引当金 540 百万円を計上する見込みであります。

2. 平成 21 年3月期 通期連結業績予想の修正(平成 20 年4月1日～平成 21 年3月 31 日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想(A)	9,500	△1,100	△1,470	△2,500	△49.40
今回予想(B)	7,890	△1,890	△2,250	△3,290	△65.01
増減額(B-A)	△1,610	△790	△780	△790	—
増減率(%)	△16.9	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 20 年3月期)	13,977	2,621	2,351	2,091	46.45

(1) 修正理由

平成 21 年3月期通期連結業績予想の修正

- ① 連結売上高につきましては、主として下記3.平成 21 年3月期通期個別業績予想の(1)修正理由①による売上高が減少し、前回予想 9,500 百万円が 1,610 百万円減少し 7,890 百万円となる見込みであります。
- ② 連結営業損益につきましては、主として下記3.平成 21 年3月期通期個別業績予想の(1)修正理由②営業損益の修正理由に加え、連結子会社の所有するたな卸資産について「棚卸資産の評価に関する会計基準」に基づき、たな卸資産の評価を見直したことにより売上原価で処理すべき評価損 300 百万円を計上する見込みとなり売上総利益が減少し、前回予想 1,100 百万円の損失が 790 百万円増加し 1,890 百万円の損失となる見込みであります。
- ③ 連結経常損益につきましては、主として上記②の理由により営業損失が増大し、前回予想 1,470 百万円が 780 百万円増大し 2,250 百万円の損失となる見込みであります。
- ④ 連結当期純損益につきましては、主として上記②及び③の理由により前回予想 2,500 百万円の損失が 790 百万円増大し 3,290 百万円の損失となる見込みであります。

3. 平成 21 年3月期 通期個別業績予想の修正(平成 20 年4月1日～平成 21 年3月 31 日) (単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想(A)	6,550	△1,010	△900	△1,930	△38.13
今回予想(B)	5,170	△1,510	△1,390	△2,600	△51.37
増減額(B-A)	△1,380	△500	△490	△670	—
増減率(%)	△21.1	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 20 年3月期)	7,992	2,076	2,116	1,906	42.34

(1) 修正理由

平成 21 年3月期通期個別業績予想の修正

- ① 売上高につきましては、主として開発・PI(プリンシパル・インベストメント)事業において、販売用不動産の売却を見込んでいた物件が、不動産市況の低迷等の影響もあり翌期以降にずれ込んだことによる減少、及びアセットマネジメント事業において見込んでいた新規案件が翌期以降にずれこんだことによるアセットマネジメント報酬の減少が合わせて 1,220 百万円減少したこと等により、前回予想 6,550 百万円が 1,380 百万円減少し 5,170 百万円となる見込みであります。
- ② 営業損益につきましては、主に上記①の売上高の減少による売上総利益の減少 400 百万円及び「棚卸資産の評価に関する会計基準」に基づき、たな卸資産の評価を見直したことにより売上原価で処理すべき評価損 126 百万円を計上することとなり売上総利益が減少し、前回予想 1,010 百万円の損失が 500 百万円増大し 1,510 百万円の損失になる見込みであります。
- ③ 経常損益につきましては、主として上記②の理由のとおり、営業損失の増大により前回予想 900 百万円が 490 百万円増大し 1,390 百万円の損失となる見込みであります。
- ④ 当期純損益につきましては、上記②の理由のほか上記「1.特別損失の発生及びその内容」に記載のとおり当社の連結子会社に対する貸付の回収可能性の見直しによる貸倒引当金繰入額が当初見込み額を上回り 540 百万円繰入れることとなったことにより、前回予想 1,930 百万円の損失が 670 百万円増大し 2,600 百万円の損失となる見込みであります。

(注) 上記の予想は、本資料の発表時現在において入手可能な情報をもとにした仮定を前提としており、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以 上